

病院だより

第41号

令和6年3月1日

病院の理念

1.患者本位の医療を行います。

2.良質な医療を行います。

3.行政サービスという自覚を持った医療を行います。

目次 ①能登半島地震 DMAT 派遣

④市民健康講座開催実績

②J-CIMELS 公認ベーシックコース開催

⑤医師の人事異動

③術後疼痛管理加算について

⑥各種募集について



©富士宮市さくやちゃん

能登半島地震 DMAT 派遣

静岡県からの派遣要請を受け、富士宮市立病院 DMAT 隊員を能登半島地震被災地へ派遣しました。

今回派遣されたのは、医師 1 名、看護師 2 名、業務調整員（診療放射線技師）1 名の合計 4 名です。

令和 6 年 1 月 8 日から 1 月 14 日のあいだ被災地にて活動を行いました。



(出発当日の朝)

DMAT とは、災害派遣医療チーム Disaster Medical Assistance Team の頭文字をとって DMAT（ディーマツト）と呼ばれています。

所属都道府県からの要請を受け、災害発生後約 48 時間以内に現場に行き、患者の処置や病院支援、被災地内外への患者搬送などの活動を主に行います。



(DMAT 活動報告会)



©富士宮市さくやちゃん

J-CIMELS（日本母体救命システム普及協議会）公認ベーシックコース開催

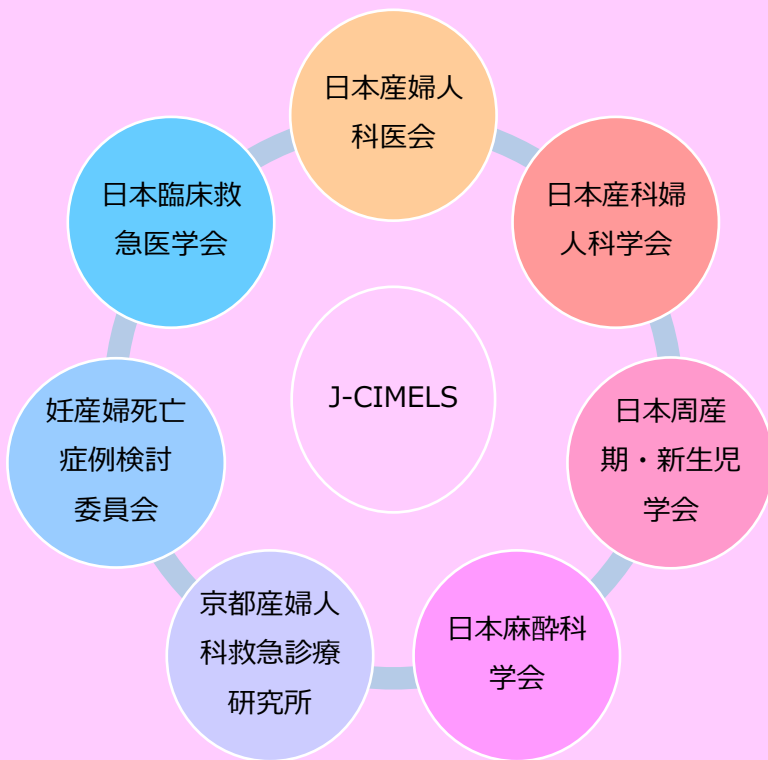
令和6年1月21日(日)に当院産婦人科主催のもと、母体急変に対応するシミュレーション研修として、J-CIMELS 公認ベーシックコースが開催されました。



J-CIMELS とは？

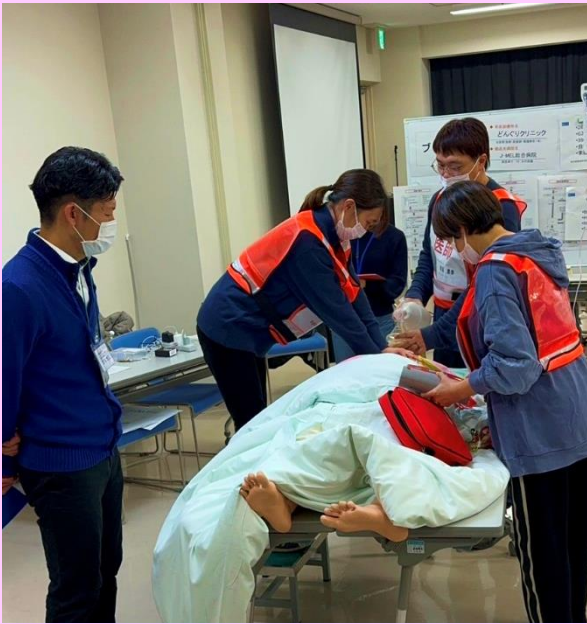
様々な職種の周産期医療関係者に対して、標準的な母体救命法を普及させるため、教育プログラムを作成して、普及活動を行っている団体です。

日本産婦人科医会、日本産科婦人科学会、日本周産期・新生児学会、日本麻酔科学会、京都産婦人科救急診療研究会、妊産婦死亡症例検討委員会、日本臨床救急医学会の7団体が共同で設立して、協賛団体に日本看護協会、日本助産師会、日本助産学科が参加しています。



J-CIMELS の教育プログラムには、ベーシックコースとアドバンスコースの2コースがあります。今回は、すべての分娩取扱者が知っておくべき初期蘇生の知識を実践教育するベーシックコースが当院で初めて開催されました。

1コース4時間で、午前と午後の計2コース行い、各コースとも臨床上重要な疾患を題材に3症例を体験し、受講者は、3人1組のチームで各症例の対応をしました。



(各シナリオの対応をする受講生とインストラクター)

受講生の感想

- ・急激に変化する状態へ対応することの難しさを感じた。
- ・異なる職種や職場の医療関係者がチームとなることで普段とは異なる視点で症例を振り返ることができた。
- ・切迫した状況の中で意思伝達方法の重要性を実感し、より伝わりやすい伝達方法を学べた。
- ・知識のブラッシュアップに繋がった。

コースディレクターを順天堂大学附属静岡病院産婦人科の田中医師、当院麻酔科の古川医師が務め、インストラクターとして、当院産婦人科の土井医師、吉澤助産師、県内医療施設から6人、開催コーディネーターとして当院産婦人科の藤原医師が参加しました。受講生として、産婦人科医、助産師、研修医、看護師と様々な職種の36人が参加し、充実した研修になりました。



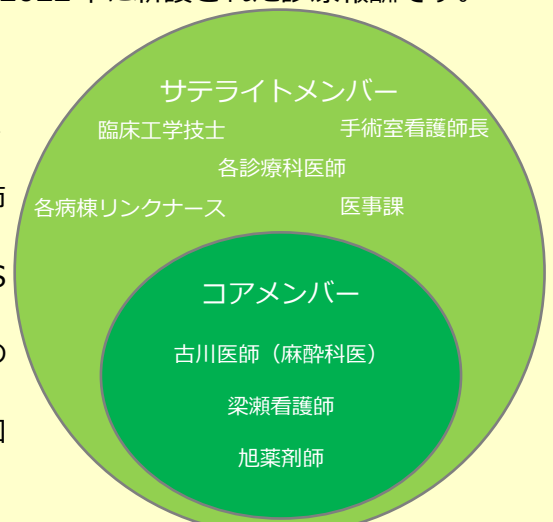
術後疼痛管理チーム「F-APS」について

○術後疼痛管理チーム加算とは

患者の苦痛を減らし、術後の早期離床を促すことで入院期間の短縮と患者満足度を向上させることを目的とし、全身麻酔実施後に患者自己調整鎮痛（PCA）を行う方へ麻酔科医、看護師、薬剤師などからなるチームでフォローアップすることにより算定できる2022年に新設された診療報酬です。

○当院の取り組み

術後疼痛管理チームをコアメンバー（古川医師、梁瀬看護師、旭薬剤師）とサテライトメンバー（臨床工学技士、手術室看護師長、各診療科医師、各病棟リンクナース、医事課）で編成し、チーム名をF-APS（Fujinomiya-Acute Pain Service）として発足しました。その後、各診療科の医師にも協力を依頼し、サテライトメンバーに加わっていただきました。



（当院の術後疼痛管理チーム）

適切な疼痛管理のためには、病態に合った対応、早期の介入が求められ、さらには薬剤作用の仕組みが異なる鎮痛法（多角的疼痛管理法）が重要とされています。そのため麻酔科医、薬剤師、看護師などの多職種から成るチームが手術後早期から疼痛管理に介入しています。

当院では、術後の疼痛管理法に加え嘔気嘔吐に対するチームとして推奨する対処法を指示したうえで、各診療科、担当看護師と協働して患者ごとに対応していく方法をとることで細やかな対応を可能にしています。現在までに150人を超える方へ術後疼痛のフォローアップを行っています。

○病棟からの声

矢崎看護師（3B病棟主任看護師）

2023年8月から3B病棟の産婦人科症例を対象に術後疼痛管理チームの活動が開始されてから半年が経過し、病棟看護師は、術後患者への対応の幅が広がり、かつ早急に対処できるようになったと実感しています。

今後もチームと共に術後患者が安心できる看護の提供に取り組み、患者に寄り添った看護を実践していきたいです。

病棟看護師の意見

- ・患者の薬への理解が高まった。
- ・疼痛スケールの統一化で分かりやすくなった。
- ・嘔気を訴える患者への対応がしやすくなった。
- ・治医以外の相談窓口が増えた。
- ・疼痛管理チームの回診のおかげで主

～コアメンバー紹介～

古川医師（麻酔科医） 写真中央

F-APS は、多職種で構成されるチームですが、真のコアメンバーは「病棟看護師」だと考えています。

一日の中でチームとして患者と関わる時間は短く、周術期病棟の最前線で常に患者と接する病棟看護師こそが最も患者の状態を把握できる存在です。

チームとして、プロトコルの策定や症例ごとの助言を行うことで、病棟看護師がより迅速かつ自律的に対応を行えるよう教育面や実務面でサポートすることが重要だと考えています。

旭薬剤師 写真左
(薬剤科薬剤師)

F-APS 発足以前は、術後の観察は、病棟看護師のみで行われていましたが、術後疼痛、しびれ、術

後嘔気嘔吐に焦点を当てた回診を行うことで、より早期に問題を発見し、患者の負担軽減と早期離床を目指しています。

F-APS の薬剤師として、患者のみならずスタッフの薬剤への理解を促し、より適切な薬剤使用に努め、術前から術後へのバトンをシームレスに渡すための役割を果たしていきたいです。

術後疼痛管理を最前線で行う病棟看護師が迅速に対応できるように回診内容をフィードバックすることでアシストしていけたらと思います。



梁瀬看護師 写真右
(手術室看護師)

手術後の回復を遅らせる三大因子は、「術後痛・不動・消化管機能不全」といわれています。

F-APS の介入により術後疼痛の緩和と合併症の発生を防ぐことで早期離床・早期回復が期待できます。

周術期疼痛管理においては、常に患者と対峙する病棟看護師こそが最も患者の状態を観察できる立場にあるため、F-APS 発足当初から病棟リンクナースと連携することを大切にしてきました。

チーム回診などを通して病棟看護師と共に患者対応を行うことは、相互のスキル向上に繋がるため、今後も実務面や教育面のサポートを継続し、連携を強めてより良い患者対応を構築していきたいと思っています。

市民健康講座開催実績

第 131 回 慢性腎臓病

講 師：富士宮市立病院 腎臓内科 科長

榊間 昌哲

開 催 日：令和 5 年 11 月 17 日(金)

参 加 人 数：43 人



第 132 回 心不全の予防、治療、連携パス

講 師：富士宮市立病院 循環器内科 医長

高木 貞徳

富士宮市立病院 5A病棟 師長

佐野 香織

開 催 日：令和 6 年 1 月 19 日(金)

参 加 人 数：48 人

今後の市民健康講座

第 134 回	災害医療とDMAT活動	副院長 薬剤部長 外科	川辺 昭浩 益田 和彦 稲守 宏治	令和 6 年 5 月 17 日(金)
第 135 回	膠原病	のばなクリニック 院長	山崎 賢士	令和 6 年 7 月 19 日(金)
第 136 回	高齢者の外傷	整形外科	齋藤 滋	令和 6 年 9 月 20 日(金)
第 137 回	心房細動（不整脈）	循環器内科	若原 伸行	令和 6 年 11 月 15 日(金)
第 138 回	癌の放射線治療	放射線科	鈴木 一徳	令和 7 年 1 月 17 日(金)
第 139 回	未定	未定	未定	令和 7 年 3 月 21 日(金)

3月31日退任



医師の人事異動

皮膚科	山崎 圭介
泌尿器科	平野 宗次郎
放射線科	久保田 憶
整形外科	曾根田 光
	上原 範大
消化器内科	加藤 大樹

腎臓内科	中上 大輔
小児科	織田 海秀
	鳥山 明日香
研修医	工藤 元
	柴本 大樹
	永森 智樹
	大林 誠

4月1日就任

消化器内科	小杉 知功
外科	秋元 亜生
整形外科	森下 平太
	増本 七海
	杉山 健太
泌尿器科	湊 祐哉

小児科	赤山 耕平
	瀬戸 理貴
	大井 遥
研修医	出 慎
	鈴木 啓太
	古賀 雅人
	露木 宏海
	李 光貴

新規採用職員について

医師のほかに助産師2名、看護師14名、臨床検査技師2名、臨床工学技士1名、診療放射線技師1名、作業療法士2名、理学療法士3名が令和6年4月1日から正規職員として、医療業務に従事します。

皆様よろしくお願いたします。



令和6年度医学生、看護学生修学資金貸与の募集について

地域医療の拡充を図るため、医学生・看護学生として修学中の方で、卒業後に富士宮市立病院の医師・看護師または助産師として勤務しようとする方に修学資金を無利子で貸与します。

申し込み方法や詳細については、富士宮市立病院のホームページからご確認ください。

申込期間：令和6年2月15日(木)～令和6年4月11日(木)

面接日：令和6年4月21日(日) (予備日 令和6年4月20日(日))

医学生

募集人数：1人以内

貸与月額：250,000円



©富士宮市さくやちゃん

看護学生

募集人数：5人以内

貸与月額：60,000円



©富士宮市さくやちゃん

会計年度任用職員の募集について

看護助手

- ・基本給：175,532円
- ・賞与：年間2.4月(令和5年度実績)
- ・通勤手当：最大31,600円(距離に応じて支給)
- ・勤務日：週5日(シフト制)
- ・勤務時間：①7時～15時30分
②8時30分～17時00分
③10時～18時30分
(シフト制)

・募集人数：5人程度



©富士宮市さくやちゃん

ご興味ある方は、病院管理課
会計年度任用職員採用担当者
までご連絡ください。

医師事務作業補助者

- ・基本給：166,063円
- ・賞与：年間2.4月(令和5年度実績)
- ・通勤手当：最大31,600円(距離に応じて支給)
- ・勤務日：週5日(土日祝休)
- ・勤務時間：8時30分～17時00分
- ・募集人数：1人

〒418-0076

静岡県富士宮市錦町3番1号

電話：0544-27-3151

FAX：0544-23-7232

e-mail:h-kanri@city.fujinomiya.lg.jp

<http://fujinomiya-hp.jp>